

# 厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）

## 分担研究報告書

### 死体腎移植における選択肢提示の諸問題に関する研究

研究分担者 加藤庸子 藤田医科大学ばんたね病院 脳神経外科 教授

研究協力者 小野 元 聖マリアンナ医科大学医学部 脳神経外科学 准教授

#### 研究要旨:

いまだ covid19 の影響は各地域の医療機関対応に影響を与えているが、未知の感染症を救急医療現場への負荷と考えると現在は軽減され、臓器提供数の回復も見られる。つまり救急医療現場の終末期対応は臓器提供自体にほぼ直結しており、ポテンシャルドナーの低下を及ぼしたというよりも、臓器提供課題は各医療機関の職員配置や選択肢提示実施、丁寧な家族説明にあり、それらがいかに重要であるかを示したと言える。そのため今後の心停止後臓器提供を含めた臓器提供の取り組みに医療者教育は極めて重要と考え、地域整備における臓器提供増加傾向を超えて日本全体で臓器提供が通常医療行為と同じように選択肢提示されること、そして家族の希望を進める事ができるように医療従事者の教育へ研究を進める。

#### A. 研究目的

臓器提供への負担軽減は必要であるが、心停止後提供においても臓器提供ではインセンティブや脳死判定時間や事務的処理等最も大きな課題は入院後の家族への説明や承諾に至るまでの過程への対応にある。本研究では小児から成人まで含めた臓器提供に対する選択肢提示と対応についての課題解決を目的とする。

#### B. 研究方法

臓器提供可能施設における臓器提供への選択肢提示と家族希望を踏まえた終末期対応の現状、移植医療の現状、そして今後の救急医療と臓器提供の在り方について検討した。

##### （倫理面への配慮）

個人情報の扱いについては十分考慮しPCにおける情報はPWによるロックをかけ、書類については鍵付きロッカーでの管理を行うなどの対応により厳重に管理する。

#### C. 研究結果

第1回ばんたね病院 臓器移植WEB講演会「終末期医療について」 2023年5月29日開催 演者：則末泰博先生「終末期の定義と多職種カンファレンス」、伊藤香先生「人工呼吸器等生命維持装置終了時の緩和ケア」、木澤義之先生「我が国の緩

和ケアと人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」

第2回ばんたね病院 臓器移植WEB講演会「移植医療の課題 発展への取り組み」2023年10月2日開催 演者：齋藤聰先生「本邦の心臓移植の課題と東京女子医科大学の取り組み」、狩野孝先生「当院における肺移植医療の現状を今後の課題」、山田洋平先生「日本における持続可能な臓器移植の方向性について」、吉川美喜子先生「移植医療推進の行政の取り組」

第3回ばんたね病院 臓器移植WEB講演会「救急医療と臓器移植」2024年2月26日開催 演者：久志本茂樹先生「わたしたちの”日本の移植医療”へ」、石川祥一朗先生「救急医療と移植医療のパートナーシップ」、金子唯先生「脳死とされ得る状態へのこれまでの経験」、中尾篤憲先生「日本は「ほかに与える」ことを不得手とする国なのか？」、野田博之先生「日本における移植医療の現状と展望」以上を開催しディスカッションを実施した。

#### D. 考察

昨年度も終末期対応についてメディエーター等の対応の議論があったが、一般的にメディエーターの役割は限定的で人生の最期について事前の本人の希望や家族との話し合いが基本であること。また患者・家族への説明には医療技術的な説明と

は別に今後の方針についての説明の2つがあり、どちらも主治医らの責務であり臓器提供は後者の選択肢に入る。移植医療の展望では臓器保護へのマシンパーフュージョンが欧米でも盛んであり、心停止後提供でも極めて重要な枠割をなす。今後の救急医療における臓器提供においては医師らが意図的に見逃さない事、そして家族支援であり、結果的に目標は我々が実施している医療の延長上にその選択肢を家族に提示することにある。

医療者個人の価値観を挟む余地はなく、中尾先生からの「普通に治療していれば臓器提供への選択肢提示は当たり前」という指摘からも、医師の役割としての選択肢提示は今後より重要となる。

### 3.その他 特になし

## E. 結論

昨年同様、各医療機関において臓器提供への対応はそれぞれであるが一般医療と同じように家族への選択肢提示を積極的に行う必要がある。久志本先生の発言からも「臓器提供へ医師らが意図的に無視しない選択」を医療者と共に進めることがより重要であると思われる。

## F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

## G. 研究発表

1. 論文発表  
特になし
2. 学会発表  
・小野元、加藤庸子.  
終末期医療と臓器提供に必要な院内体制と  
人員配置の考え方. 日本脳死脳蘇生学会  
2023年7月

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし